



- * 「祭司」とは、旧約時代、神と人との仲介者として聖所で奉仕をした人のこと。中でも祭壇で動物を「いけにえ」として捧げることが最も重要な仕事であった。これは罪の赦しのための贖いの行為である。一番奥にある至聖所には年に一回大祭司のみが入ってイスラエル全体のための贖いの奉仕をした。祭司のもうひとつの仕事は律法を管理し、民に教えることであった。
- * 新約時代になり、イエス・キリストが十字架にかかって私たちが負うべき罪の報いを受けてくださった。一度だけの主のこの贖いの行為で、私たちはすべての罪を赦される者となったのである。また、キリストは今も生きていて大祭司として父なる神との仲介をしてくださっている。「しかし、キリストは永遠に存在されるのであって、変わることもない祭司の務めを持っておられます。したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことがおできになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」（ヘブル7：23～25）もはや私たちは人間の祭司がいなくてもイエス・キリストの助けにより自分の意志で神に近づくことができるようになったのである。具体的には神との交わりのために自由な祈りができる。これは驚くべき変化である。感謝しよう。
- * 「あなたかたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。」（1ペテロ2：5）祭司は動物を「いけにえ」としてささげたが、私たちは今や霊のいけにえをささげる祭司である、という。「霊のいけにえ」とは、祈り、感謝、賛美などのことである。目に見えなくてもイエス・キリストがいつも仲介してくださるので必ず神に届く。祈りの最後に「イエス・キリストの御名によって祈るのはそのためである。今は私たちキリスト者一人ひとりが祭司であるといえる。
- * 宗教改革当時、聖職者たちはローマは教皇を頂点とする霊的階級制をとっており、絶大な権力を誇っていた。それ故金銭的腐敗、道徳的腐敗が激しかった。ルターは、洗礼を受けてキリスト者になれば、すべて神の前に平等であり差別はない。いわばすべて祭司であると主張した。牧師、伝道師、宣教師は「聖職者」ではなく、それぞれの賜物によって神に召された「教職者」である。「しかし、あなたかたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたかたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたかたが宣べ伝えるためなのです。」（1ペテロ2：9）教職者の役割の第一は一般信徒と同じく福音を宣べ伝えることであることを忘れてはならない。